

平成30年度
望ましい学校づくり基本方針保護者説明会等 意見・質疑
【開聞中学校区】

【9月5日（水） 開聞小学校区（開聞総合体育館サブアリーナ）】

質問）協議を重ねてできた方針であるので、この方針のとおりについてほしい。様々なことがあると思うが、他の地域と連携を取りながらやっていきたい。

また、志布志市の山重小学校は地域と学校と行政が連携を取って地域の防災拠点として造られた学校だと聞いた。過疎化してきている中で、先進地の事例も参考としながら進めていくのが理想的だと思う。

回答）地域によっては学校が防災拠点となるということもあるので、先進地の事例を参考にしていきたい。

質問）アンケートの中でも「集約される学校の場所」が一番問題になっている。まずはこの問題を解決していかないといけないと思う。

回答）今後の望ましい学校づくり調整会議では、学校の教室数や敷地面積、防災面についての資料を出してご意見を伺いたいと考えている。意見を伺った上で、教育委員会事務局の案を住民説明会等で示したいと考えている。

質問）まず参加者が少ないことに驚いた。基本方針では、開聞地域の2校を1校にとのことだったが、小学校の段階から一緒になると、人数が多くていいことがたくさんありそうだったと思った。たくさんの意見を聞きつつ、方向が決まったらたくさんの人に周知していくことが大事だと思う。

回答）平成26年から協議してきて、説明会を何度も開催しているが、まだ知らないという方が多い。決して強行してやろうとは考えていない。声をかけていただければ出前説明会にも伺う。まだ最終決定ではないので、たくさん意見をいただきたい。

【1月28日（月） 川尻小学校区（川尻ふれあい交流館）】 ※意見交換会

質問）川尻小校区は、周りの校区から離れているので、地域の核となる小学校がなくなると衰退が激しい。福祉・防災面で損失が大きく過疎化が進む。昔より子どもの声が聞こえず寂しい。学校再編すると不便さを感じて川尻に住む人が減らないか心配。若い人や子どもたちの帰って来る場所を確保してほしい。地域を盛り上げる対策を考えているのか。

回答）教育委員会は、基本的には、まずは子どものことを最優先に考えて検討を進めなければならないと考えている。地域活性化については、市長公室をはじめ他の部署を中心に協議を進めてもらいたいと考えている。地域を盛り上げる方策等については、地域が主になって考えていくことを基本にして、教育委員会も一緒に取り組んでいきたい。

質問) 核となる学校がなくなると、次の世代がいなくなる。芽を摘まないでほしい。現在、「川尻元気プロジェクト」が地域活性化を図っており、若い世帯が3世帯増え、5世帯が待っている。この取組についてどのように評価しているのか。

回答) 先日、マルシェの開催について新聞で拝見した。本当に素晴らしいことだと思っているし、ありがたううれしいことである。頑張っていたに感謝する。

質問) 複式学級が良くない理由が分からない。ダメな科学的根拠があるのか。教職員を減らすために統廃合を進めているのではないのか。

回答) 複式学級では、1人の担任が2学年分の授業の準備や研究を行い、45分の中で2学年の授業を行っており、授業の準備や実験の授業の組み立てなど大変な面が多い。学級数が増えると教員数の増える割合が大きくなり、学級数以上の教員が配置されると、1学級を複数に分けて習熟度別授業が可能となったり、専科教員が配置できたら、例えば全学年その教員が算数を教えて、担任に空き時間を作ることもできる。また、学校全体の業務量はほぼ同じであり、教員数が多いと、教員1人当たりの業務量を減らすことができる。その分、教員に時間的なゆとりができ、教材研究の時間や子どもたちと触れ合える時間を確保することができる。

子どもたちは、担任からの直接指導の時間が半分になったり、固定化された人間関係の中で学ぶより、大人数の中で多様な考え方に触れて切磋琢磨して生きる力を養ってほしいと考えている。決して、教職員を減らすために進めているわけではない。

質問) 少人数は先生との距離感がよく、一体感があり、きめ細かい指導・相談がしやすい。社会性が育まれており、先生方に感謝したい。人数が多いと先生が大変。教科担任制は、今の川尻小ではできないのか。開聞小と再編したら大きな違いがあるのか。

回答) 川尻小は、いろいろな賞をもらったりしている。複式学級でも、川尻小のように教員の努力や学校と地域が連携して社会性などを養っているところもある。教育委員会としては、「多様な意見に触れ、多くの人たちと競争したら、もっと伸びる可能性があるのではないか」という考えで提案している。教科担任制については、現状では難しい。川尻小は、5学級なので、教諭※の配置は5人。開聞小と一緒にになると、6学級と特別支援学級2学級の8学級になるので、教諭の配置は9人になり、担任以外の教諭を配置することができる。この担任以外の教諭を専科とした場合、教科担任制や少人数指導などが可能となる。新学習指導要領では、「主体的で対話的な深い学び」がキーワードであり、学力を身に付けさせるためにも、中学校のような教科担任制や少人数指導が可能となる教諭の配置ができるような学級規模が望ましいと考えている。(※教諭とは、校長、教頭、養護教諭、事務職員、図書館事務職員、学校主事、学校事務補助員を除いた教職員のこと。)

質問) 学校再編後、いじめや自殺などが発生したら教育委員会は責任をとれるのか。

回答) 今、「どの学校でもいじめは起こりうるものだ」という考え方の下、日頃より教員が気を配っている。「人数が多いと目が行き届かないのではないのか」という意見があるが、ある程度の規模の人数がいると、当事者以外の子どもたちの様子から変化に気付くこともある。「人数の多い学校は いじめが多い」とは一概にはいえない。今は早期発見・早期解決に努めている。「もし事故があった時に誰が責任を取るのか」ということについては、原因が特定された時に生じるものである。そういうことが起こらないように努力している。

質問) 地域は学校の存続を望んでいる。地域の声を無視して再編を進めないでほしい。前回の住民説明会では反対の意見が多かった。「地域住民の声を尊重する」という文言があるのに、基本方針の内容が変わらなかったのはなぜか。

回答) 基本方針は、「教育委員会が望ましいと考えている方針」である。この基本方針の素案の説明会を平成29年10月30日に開催したところ、約160人の住民の皆さんにお集まりいただいた。説明会は意見を伺う場であって、何かを多数決で決める場ではないと考えているが、「保護者や地域住民との協議を重ねながら」という部分を追加したり、「集約する」としていた文末を、「集約を目指す」という表現に変更したりして、地域住民と一緒に学校をつくっていくような基本方針とし、現在、地域代表者、小学校保護者、中学校保護者、幼児保護者、学校長などで組織する「市望ましい学校づくり調整会議」で意見を伺いながら調整を進めている。

質問) 学校再編を決めたアンケートは、何人に対して実施し、何人から回答をもらったものか。

回答) 「市学校のあり方について考える会」が平成27年に開催した「小中学校再編等検討会」に参加された242人に対して実施したアンケートで、220人が回答している。回答者のうち、102人が「学校の再編が必要」、49人が「どちらかと言えば必要」と回答している。なお、学校再編に関する方向性は、決して多数決で決めたことではなく、考える会などからの意見を伺いながら、教育委員会が学校教育充実のために決めたものである。

質問) 「意見が言えない保護者がいる」ということで保護者意見交換会を開催したと思うが、「意見を言えない地域住民もいる」と思う。住民対象の意見交換会はしないのか。

回答) 地域住民を対象とした会も必要だと思っている。山川地域では、8月の保護者説明会の後、協議が進んでおり、2月下旬から3月上旬にかけて住民説明会を実施する。山川地域では協議が進んできているので、具体的な説明ができる。開聞地域においても、住民説明会等を開催したいと考えている。

質問) 合併するとしたら、どちらの学校の校舎を使うのか。新校舎を建てるのか。

回答) どちらの学校を使うのかはこれからの協議である。開聞中学校区会議の中で、「基本

方針に基づいて協議を進める」と決まれば、集約のための要件等を整理して、「どちらの学校に集約するか」という協議を始めることになる。新しい学校を建設することは、現時点では考えていない。教育委員会としては、1学年2学級規模が望ましいと考えているので、基本方針に示しているように、開聞地域と山川地域で新設校を建築する案についても調査研究している。

質問) 開聞地域の小学校を1校に再編してもメリットがない。部活などの選択ができない中学校からの再編や山川・開聞地域で1校にしてはどうか。平成33年度に再編する法的根拠があるのか。指宿地域は後回しにしているのか。

回答) 平成26・27年度の「市学校のあり方について考える会」での協議において、「開聞・山川地域では、多くの方が『学校再編を行うことが必要』と考えており、『小中学校ともに再編することが必要で、小中一貫校を望んでいる』ことが伺える」というまとめに至った。その後の調査の中で、小中一貫校の新築には相当の年数がかかるということが分かってきたことから、まずは、課題となっている過小規模校の解消を図るため、「小学校の集約を目指す」としたところである。中学校の再編については、他中学校区の調整会議と一緒に協議する必要がある。山川・開聞地域で1校に集約する案については、今後も引き続きその可能性について調査研究を進めることとしている。平成33年度を目指す法的根拠は特にはない。改訂された学習指導要領では、小学校では平成32年度から、中学校では平成33年度から完全実施されることから、その準備も考慮し、基本方針にあるように、平成33年度を「目途」としているところである。

指宿地域についても協議を進めており、西指宿中校区では、「何らかの方向性を考えないといけない」という意見や、北・南指宿中校区では、「柳田小が進学するときに2校に分かれる課題があり、柳田小の方向性によっては魚見小や指宿小などにも影響があるので、早く考え方をまとめてほしい」という意見などが出ている。指宿地域を後回しにしているわけではなく、同じように調整会議で協議をしている。

質問) バス通学になった場合、乗り遅れた子どもはどうするのか。早退した時どう対応するのか。他校はどうしているのか。川尻はバスで脇は徒歩なのか。

回答) スクールバスを運行している他市では、乗り遅れる児童はあまりいないと聞いている。運転手の連絡先を保護者に伝えており、万一何かあったときは緊急連絡を入れるそうである。また、帰りについては、朝、帰りの乗車時刻をチェックしており、乗り遅れや乗り忘れはないということだった。学校を早退する場合は、保護者に迎えをお願いしているということであった。どこの地区の児童がバス通学になるのかは、今後の協議になる。スクールバスの運行計画も含めて、万一の対応等については、学校教育の一環として、学校で検討してもらい、意見をいただきたいと考えている。

質問) 新しく制服（標準服）を購入すると負担が大きいと思うがどう考えているのか。

回答) 今後の協議である。なお、山川地域では、現時点で、「再編してもしばらくはそのままでもいいのではないか」「お下がりがあればそれを使ってもいいのではないか」「新しく購入する必要が出てきた時に決められた制服にしてはどうか」「校章だけ新しく上から貼ってはどうか」などの意見が出されている。また、選択肢のひとつとして、私服という選択もある。市内では、指宿小、丹波小、柳田小が私服である。

制服（標準服）は、学校の教育目標との関連があるので、学校として制服（標準服）を教育的にどのように考え、必要か不要かを判断し、保護者に相談していくことになるのかと考えている。

質問) 小学校が地元のお祭りなどを継承する役割を担っている。小学校を統合してしまうと地元の文化までなくなってしまう可能性があることについて、どう考えているのか。

回答) 開聞地域は郷土芸能が多く、各地区で引き継いでいる。中には小学校で伝承しているものもある。ただ、少子高齢化などから、地域での伝承が難しい状況にもある。教育委員会では、小中一貫教育の「いぶ好き『ふるさと学』」の中で郷土芸能を取り上げ、学校と郷土芸能保存会が一緒になった取組を進めている。この活動は、開聞地域ではすでに行われており、小学生と中学生が郷土芸能保存会の皆さんと一緒に活動している。地域の文化の継承や郷土芸能の継承などは、学校に任せるのではなく、郷土芸能保存会と一緒に継承するというのも大切ではないかと考えている。

質問) 閉校になった場合、跡地の活用に具体的なものがあるのか。企業誘致などは、現実的に無理なのではないか。

回答) 文部科学省では全国の学校跡地の活用事例を紹介しており、市でも独自に調査を行っている。活用事例としては、体育館には暗幕があつて真っ暗になるのでキノコを栽培しているところがある。障害者福祉施設になっているところもある。レストランや公民館、市役所の出張所、「サテライトオフィス」というものもある。「サテライトオフィス」とは、東京や福岡などから出張で来たときに、「書類の修正を行いたい支店をつくるまでもない」という場合などに契約する、シェアオフィスのようなものである。なお、山川地域の調整会議では、まずは市で公民館や支所などの活用はないのか、次に地域として何か希望はないのか、その次に企業への案内と考えている。具体的には、「避難所として残してほしい」「区で活用方法を検討させてほしい」といった意見がでていいる。調整会議の意見を聞きながら方向性を決めたい。

その他の意見

- ・鹿屋市の花岡学園花岡小学校・花岡中学校を視察した。小学生と中学生が違和感なく過ごしている様子が見られた。花岡地区に隣接している古江、高須、菅原地域の衰退が激しい。
- ・親世代は、大人数の中で過ごしてきたので、現在の川尻小を見ると少なく見えるのは当たり前である。少ないとかわいそうに見えるが、子どもたちが寂しさを感じている様子はない。学級規模は小さいが、縦のつながりが強く、良好な関係を築いている。子どもたちは

「学校が楽しい」と言っている。

- 今時の子どもは、指示待ちが多いと言われるが、複式学級では、先生が付かない時間に自分たちで考えて学習する力が身に付いている。中学校に進学した時に、自分で考えて学習する力があると先生に認められた。複式学級で過ごした子どもは、周りの友達が指示を待っていることに「なぜ何もしないんだろう」と思っている。自然と自ら学ぼうとする力が育っている。
- 登校時に「おはよう」と声を交わすなど、地域の高齢者の楽しみをなくしたくない。地域に密接に関わっている小学校なのでなくしたくない。
- 地域には、専門的な知識や技能を持った人がいる。その人材を生かした学校の教育活動を行えば、小規模校でも多くのことを学ぶことができる。
- 知り合いが川尻に家を建てている。建てようと思ったときは学校再編の話はなかった。建った後に学校がなくなると知ったらどう思うのか。早めに方向性を定めてほしい。
- 全校児童が10人位になってから再編を考えたい。
- 常設のエアコンを設置してほしい。再編をみながら常設を考えるという話があったようだが、小さい学校だからこそ環境の差別をしないでほしい。